

「MY TREE 父親プログラム」の効果測定(2022年度)

1. 目的

「MY TREE 父親プログラム」の実施前後に行ったアンケート調査を比較検討することによって、「MY TREE 父親プログラム」の効果について分析を行いました。

2. 調査方法

2-1 調査対象

調査対象は、2021年度に「MY TREE 父親プログラム」に参加した実施した6人と、2022年度に参加した12人、合計18人です。

参加者の平均年齢(±標準偏差)は、表2-1に示すように、40.9(±6.9)歳、最小年齢30歳、最大年齢53歳でした。

表2-1 参加者の平均年齢

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
2021年度	6	30	53	40.3	8.8
2022年度	12	33	51	41.2	6.1
合計	18	30	53	40.9	6.9

参加経路別にみると、2021年度の自主的参加は3人(50.0%)、紹介は3人(50.0%)と同数でしたが、2022年度の自主参加6人(25.0%)、紹介12人(75.0%)でした。両年度を合わせると自主参加者は6人(33.3%)、紹介は12人(66.7%)でした。

表2-2 参加経路

年度	人数・%	参加経路		合計
		自主的	紹介	
2021年度	人数	3	3	6
	%	50.0	50.0	100.0
2022年度	人数	3	9	12
	%	25.0	75.0	100.0
合計	人数	6	12	18
	%	33.3	66.7	100.0

注) カイ2乗検定、正確な有意確率(両側) $p = 0.334$

2-2 調査内容

調査項目は、育児意識に関する13項目(順序尺度:1「はい」、2「どちらかといえばはい」、3「どちらかといえばいいえ」、4「いいえ」の4件法)、自己評価に関する15項目(順序尺度:1「全くない」、2「年に1・2回ある」、3「月に1・2回ある」、4「週に1・2回ある」、5「ほとんど毎日」の5件法)、子育て状況に関する項目9項目(名義尺度:「はい」、「いいえ」の2件法、ただしⅢ-5の項目については「過去」「今」「いいえ」の3件法)です。この調査項目は、母親を対象とする「MY TREE ペアレンツ・プログラム」と同じです。

3. 分析方法

3-1 基礎集計

すべての項目について、基礎集計を行いました。

3-2 子育て状況：クロス集計とカイ 2 乗検定

子育て状況については、プレとポストアンケート調査の関連性を検討するために、クロス集計を行い、カイ 2 乗検定を行いました。

調査対象は 18 人と少ないので、フリーソフト G*Power 用いて、検出力（検定力）を算出しました。カイ 2 乗検定、自由度 1、効果量 $w = 0.3$ 、有意水準 $\alpha = 0.05$ 、サンプルサイズ 18 人を入力したところ、検出力（Power）= 0.246 でした。

統計的検定は、標本（サンプルサイズ）から得たデータ分析結果を母集団にまで一般化するために行われます。一般化するためには、検出力が 0.8 以上となるような標本（サンプルサイズ）が必要です。なお、このこのカイに乗検定を行うためには、調査対象者は 88 人以上必要となります。

3-3 育児意識と自己評価：ウィルコクソン（Wilcoxon）の符号付き順位検定によるプレとポストの比較

プレとポストの関連をみるために、育児意識と自己評価の項目についてはウィルコクソンの符号付き順位検定を行いました。なお、この検定を用いたのは、各項目についてシャピロ・ウィルク検定を行った結果、正規分布を示していなかったからです。

フリーソフト G*Power 用いて検出力（検定力）を算出したところ（ウィルコクソンの符号付き順位検定、両側検定、効果量 $w = 0.5$ 、有意水準 $\alpha = 0.05$ 、対象者 18 人を入力）、検出力（Power）= 0.50 でした。なお、この検定を行い、0.8 以上の検出力にするためには、調査対象者は 35 人以上必要となります。

3-4 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

育児意識や自己評価の下位尺度得点については、母親を対象とする「2022 年度 MY TREE ペアレンツ・プログラム」の因子を活用しました。プログラム実施後に行ったポストアンケート調査のデータを因子分析した結果、それぞれ次のような 3 因子が抽出されました。育児意識は「体罰容認」「被害感情」「悲観的思考」の 3 因子、自己評価は「感情コントロール困難」「孤立感・不信感」「身体的暴力」の 3 因子です。因子の下位尺度得点を算出するにあたっては、育児意識や自己評価が否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値しました。「MY TREE 父親プログラム」実施前後を比較するためにウィルコクソンの符号付き順位検定を行いました。

なお、統計処理を行うに当たっては、人数の少ない対象者の分析が可能な IBM SPSS ヴァージョン 29 Exact Test の統計ソフトを用いて正確確率検定を行いました。

4. 調査結果

4-1 子育て状況の変化（表 4-1-1、表 4-1-2）

子育て状況の基礎集計結果は、表 4-1-1 に示すとおりです。

また、プレとポストを比較するためのクロス集計とカイ 2 乗検定を行いました。その結果は、表 4-1-2 に示す通りです。「Ⅲ-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる」の項目は 5%の危険率で有意差があり、ポストの方が肯定的でした。しかし、それ以外の項目についてはプレとポストの間に有意差はありませんでした。調査者対象の人数が少なかったこと、また、プレ調査において肯定的な回答が多かったからだと思われます。

表 4-1-1 子育て状況の基礎集計

		プレ		ポスト				プレ		ポスト	
		人数	%	人数	%			人数	%	人数	%
Ⅲ-1 子育てを手伝ってくれる人がいる	はい	10	55.6	9	50.0	Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある	過去	7	38.9	5	27.8
	いいえ	0	0.0	2	11.1		今	1	5.6	1	5.6
	欠損値	8	44.4	7	38.9		いいえ	7	38.9	9	50.0
	合計	18	100.0	18	100.0		欠損値	3	16.7	3	16.7
Ⅲ-2 子育ての大変さをわかってくれる人がいる	はい	14	77.8	13	72.2	Ⅲ-6 過去にDVを受けたことがある人のみ：(過去のDVが)今も影響している	はい	18	100.0	18	100.0
	いいえ	2	11.1	4	22.2		いいえ	5	27.8	2	11.1
	欠損値	2	11.1	1	5.6		いいえ	6	33.3	6	33.3
	合計	18	100.0	18	100.0		欠損値	7	38.9	10	55.6
Ⅲ-3 子育ての相談が出来る人がいる	はい	15	83.3	13	72.2	Ⅲ-7 リラックスできる時間がある	はい	18	100.0	18	100.0
	いいえ	1	5.6	4	22.2		はい	17	94.4	16	88.9
	欠損値	2	11.1	1	5.6		いいえ	1	5.6	1	5.6
	合計	18	100.0	18	100.0		欠損値	0	0.0	1	5.6
Ⅲ-4 子どもの健診(0歳、1歳、3歳児健診など)は受けている	はい	17	94.4	17	94.4	Ⅲ-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる	はい	18	100.0	18	100.0
	欠損値	1	5.6	1	5.6		はい	11	61.1	12	66.7
	合計	18	100.0	18	100.0		いいえ	6	33.3	5	27.8
	過去	7	38.9	5	27.8		欠損値	1	5.6	1	5.6
Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある	今	1	5.6	1	5.6	Ⅲ-9 自分が楽しめることをしている	はい	18	100.0	18	100.0
	いいえ	7	38.9	9	50.0		はい	13	72.2	15	83.3
	欠損値	3	16.7	3	16.7		いいえ	5	27.8	1	5.6
	合計	18	100.0	18	100.0		欠損値	0	0.0	2	11.1
Ⅲ-6 過去にDVを受けたことがある人のみ：(過去のDVが)今も影響している	はい	5	27.8	2	11.1	Ⅲ-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる	はい	18	100.0	18	100.0
	いいえ	6	33.3	6	33.3		はい	11	61.1	12	66.7
	欠損値	7	38.9	10	55.6		いいえ	0	0.0	2	11.1
	合計	18	100.0	18	100.0		欠損値	7	38.9	4	22.2
						合計	18	100.0	18	100.0	

表 4-1-2 子育て状況のクロス集計とカイ 2 乗検定

項目	回答	プレ		ポスト		カイ2乗検定による正確有意確率
		人数	%	人数	%	
Ⅲ-1 子育てを手伝ってくれる人がいる	はい	8	100.0	7	87.5	一定のため統計量は計算されません
	いいえ	0	0.0	1	12.5	
	合計	8	100.0	8	100.0	
Ⅲ-2 子育ての大変さをわかってくれる人がいる	はい	13	86.7	11	73.3	0.476
	いいえ	2	13.3	4	26.7	
	合計	15	100.0	15	100.0	
Ⅲ-3 子育ての相談が出来る人がいる	はい	14	93.3	14	73.3	0.2667
	いいえ	1	6.7	1	26.7	
	合計	15	100.0	15	100.0	
Ⅲ-4 子どもの健診(0歳、1歳、3歳児健診など)は受けている	はい	16	100.0	16	100.0	一定のため統計量は計算されません
	いいえ	0	0.0	0	0.0	
	合計	16	100.0	16	100.0	
Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある	過去	5	38.5	5	68.5	0.130
	今	1	7.7	0	0.0	
	いいえ	7	53.8	8	61.5	
	合計	13	100.0	13	100.0	
Ⅲ-6 過去にDVを受けたことがある人のみ：(過去のDVが)今も影響している	はい	2	33.3	1	16.7	0.333
	いいえ	4	66.7	5	83.3	
	合計	6	100.0	6	100.0	
Ⅲ-7 リラックスできる時間がある	はい	16	94.1	16	64.1	1.000
	いいえ	1	5.9	1	5.9	
	合計	17	100.0	17	100.0	
Ⅲ-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる	はい	10	62.5	11	68.8	0.036*
	いいえ	6	37.5	5	31.3	
	合計	16	100.0	16	100.0	
Ⅲ-9 自分が楽しめることをしている	はい	12	70.6	15	88.2	0.515
	いいえ	5	29.4	2	11.8	
	合計	17	100.0	17	100.0	
Ⅲ-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる	はい	7	100.0	7	100.0	一定のため統計量は計算されません
	いいえ	0	0.0	0	0.0	
	合計	7	100.0	7	100.0	

注 * : $p < 0.05$

4-2 育児意識のプレとポストの比較

(表 4-2-1 の基礎集計と表 4-2-2 のウィルコクソンの符号付き順位検定)

育児意識の基礎集計結果は、表 4-2-1 に示すとおりです。

表 4-2-1 育児意識のプレとポストの比較 (基礎集計)

項目	回答	プレ		ポスト		項目	回答	プレ		ポスト	
		人数	%	人数	%			人数	%	人数	%
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	はい	0	0.0	0	0.0	I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	はい	3	16.7	1	5.6
	どちらかといえばはい	7	38.9	0	0.0		どちらかといえばはい	4	22.2	0	0.0
	どちらかといえばいいえ	5	27.8	9	50.0		どちらかといえばいいえ	3	16.7	3	16.7
	いいえ	6	33.3	9	50.0		いいえ	8	44.4	14	77.8
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	はい	1	5.6	0	0.0	I-9 子どもが危険な時、咄嗟の暴力(体罰)はやむを得ない	はい	9	50.0	1	5.6
	どちらかといえばはい	1	5.6	1	5.6		どちらかといえばはい	5	27.8	0	0.0
	どちらかといえばいいえ	7	38.9	6	33.3		どちらかといえばいいえ	3	16.7	3	16.7
	いいえ	9	50.0	11	61.1		いいえ	1	5.6	14	77.8
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	はい	1	5.6	0	0.0	I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	はい	5	27.8	7	38.9
	どちらかといえばはい	5	27.8	2	11.1		どちらかといえばはい	7	38.9	8	44.4
	どちらかといえばいいえ	5	27.8	8	44.4		どちらかといえばいいえ	3	16.7	2	11.1
	いいえ	7	38.9	8	44.4		いいえ	3	16.7	1	5.6
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	はい	2	11.1	0	0.0	I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	はい	5	27.8	2	11.1
	どちらかといえばはい	3	16.7	3	16.7		どちらかといえばはい	4	22.2	5	27.8
	どちらかといえばいいえ	5	27.8	6	33.3		どちらかといえばいいえ	5	27.8	7	38.9
	いいえ	8	44.4	9	50.0		いいえ	4	22.2	4	22.2
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	はい	1	5.6	0	0.0	I-12 面倒な事には最初からあきらめる	はい	1	5.6	1	5.6
	どちらかといえばはい	6	33.3	1	5.6		どちらかといえばはい	3	16.7	4	22.2
	どちらかといえばいいえ	3	16.7	2	11.1		どちらかといえばいいえ	5	27.8	7	38.9
	いいえ	8	44.4	15	83.3		いいえ	9	50.0	6	33.3
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	はい	2	11.1	0	0.0	I-13 困った時は、誰かに相談できる	はい	5	27.8	8	44.4
	どちらかといえばはい	3	16.7	0	0.0		どちらかといえばはい	4	22.2	6	33.3
	どちらかといえばいいえ	5	27.8	3	16.7		どちらかといえばいいえ	6	33.3	3	16.7
	いいえ	8	44.4	15	83.3		いいえ	3	16.7	1	5.6
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	はい	8	44.4	14	77.8						
	どちらかといえばはい	5	27.8	3	16.7						
	どちらかといえばいいえ	3	16.7	0	0.0						
	いいえ	2	11.1	1	5.6						
	合計	18	100.0	18	100.0						

表 4-2-2 は、プレとポストを比較するために行ったウィルコクソンの符号付き順位検定を示したものです。「I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ」「I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ」「I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ」「I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない」「I-9 子どもが危険な時、咄嗟の暴力(体罰)はやむを得ない」の5項目については、プレよりもポストの順位が統計的に有意に低くなっており、ポストの方が否定的な意識に変化していました。

また、「I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない」「I-13 困った時は、誰かに相談できる」の2項目(逆転項目)については、プレよりもポストの順位が統計的に有意に高くなっており、ポストの方が肯定的な意識になっていました。

「I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う」(逆転項目)は、プレよりポストの順位が統計的に高い傾向があり、ポストの方が肯定的な意識に近くなったと推測されます。

この他の「I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる」「I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ」「I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う」「I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ」「I-12 面倒な事には最初からあ

きらめる」の5項目についてはプレとポストの間には統計的な有意差は認められず、変化はなかったと思われます。

表 4-2-2 育児意識のプレとポストの比較（ウィルコクソンの符号付き順位検定）

		人数	平均値	中央値	Z	正確な有意確率 (両側)	有意差
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	プレ	18	2.9	3.0	-2.887 ^b	0.004	* *
	ポスト	18	3.5	3.5			
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	プレ	18	3.3	3.5	-1.027 ^b	0.438	n s
	ポスト	18	3.6	4.0			
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	プレ	18	3.0	3.0	-1.234 ^b	0.276	n s
	ポスト	18	3.3	3.0			
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	プレ	18	3.1	3.0	-.894 ^b	0.431	n s
	ポスト	18	3.3	3.5			
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	プレ	18	3.0	3.0	-2.449 ^b	0.016	*
	ポスト	18	3.8	4.0			
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	プレ	18	3.1	3.0	-2.435 ^b	0.018	*
	ポスト	18	3.8	4.0			
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	プレ	18	1.9	2.0	-2.495 ^c	0.016	*
	ポスト	18	1.3	1.0			
I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	プレ	18	2.9	3.0	-2.359 ^b	0.021	*
	ポスト	18	3.7	4.0			
I-9 子どもが危険な時、叱咤の暴力（体罰）はやむを得ない	プレ	18	1.8	1.5	-2.941 ^b	0.002	*
	ポスト	17	3.2	4.0			
I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	プレ	18	2.2	2.0	-2.111 ^c	0.063	†
	ポスト	18	1.8	2.0			
I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	プレ	18	2.4	2.5	-1.508 ^b	0.234	n s
	ポスト	18	2.7	3.0			
I-12 面倒な事には最初からあきらめる	プレ	18	3.2	3.5	-1.265 ^c	0.359	n s
	ポスト	18	3.0	3.0			
I-13 困った時は、誰かに相談できる	プレ	18	2.4	2.5	-2.233 ^c	0.036	*
	ポスト	18	1.8	2.0			

注1) Wilcoxon の符号付き順位検定 b. 負の順位に基づく c. 正の順位に基づく

注2) 尺度：1位「はい」、2位「どちらこといえばはい」、3位「どちらかといえはいいえ」、4位「いいえ」

注3) プルーの網掛けは逆転項目

注4) * *: $p < 0.01$ * : $p < 0.05$ † : $0.05 < p < 0.1$ ns : 有意差無

4-3 自己評価のプレとポストの比較

(表 4-3-1 の基礎集計と表 4-3-2 のウィルコクソンの符号付き順位検定)

自己評価の基礎集計結果は、表 4-3-1 に示すとおりです。

表 4-3-2 は、プレとポストを比較するために行ったウィルコクソンの符号付き順位和検定を示したものです。

「II-6 子どもに暴言を吐いてしまう」「II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう」「II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう」「II-11 つい子どもに怒鳴っている」「II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く」「II-14 子どもにげんこつで殴る」の6項目については、プレよりポストの順位が統計的に有意に高くなっており、ポストの方が否定的に変化していました。

「II-12 腹がたつと、子どもを無視する」は、プレよりポストの順位が統計的に高い傾向があり、ポストの方が否定的になったと推測されます。

この他の「II-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある」「II-2 自分の人生は辛いことが多いと思うことがある」「II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う」「II-4 つらいときにも助けをもとめることができない」「II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある」「II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす」「II-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す」「II-15 子どもを足蹴りする」の8項目については、プレとポストの間には統計的な有意差は認められず、変化はなかったと思われます。

表 4-3-1 自己評価のプレとポストの比較(基礎集計)

項目	回答	プレ		ポスト		項目	回答	プレ		ポスト	
		人数	%	人数	%			人数	%	人数	%
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある	全くない	10	55.6	8	44.4	II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉め込ます	全くない	14	77.8	17	94.4
	年に1, 2回ある	2	11.1	4	22.2		年に1, 2回ある	4	22.2	1	5.6
	月に1, 2回ある	0	0.0	3	16.7		月に1, 2回ある	0	0.0	0	0.0
	週に1, 2回ある	2	11.1	1	5.6		週に1, 2回ある	0	0.0	0	0.0
	ほとんど毎日	4	22.2	1	5.6		ほとんど毎日	0	0.0	0	0.0
	欠損値	0	0.0	1	5.6		欠損値	0	0.0	0	0.0
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
II-2 自分の人生は辛いことが多いと思うことがある	全くない	6	33.3	3	16.7	II-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	全くない	14	77.8	16	88.9
	年に1, 2回ある	5	27.8	9	50.0		年に1, 2回ある	4	22.2	2	11.1
	月に1, 2回ある	0	0.0	4	22.2		月に1, 2回ある	0	0.0	0	0.0
	週に1, 2回ある	4	22.2	1	5.6		週に1, 2回ある	0	0.0	0	0.0
	ほとんど毎日	3	16.7	1	5.6		ほとんど毎日	0	0.0	0	0.0
	欠損値	0	0.0	0	0.0		欠損値	0	0.0	0	0.0
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	全くない	9	50.0	7	38.9	II-11 つい子どもに怒鳴っている	全くない	3	16.7	9	50.0
	年に1, 2回ある	5	27.8	6	33.3		年に1, 2回ある	3	16.7	4	22.2
	月に1, 2回ある	2	11.1	2	11.1		月に1, 2回ある	4	22.2	4	22.2
	週に1, 2回ある	1	5.6	2	11.1		週に1, 2回ある	7	38.9	0	0.0
	ほとんど毎日	1	5.6	0	0.0		ほとんど毎日	1	5.6	1	5.6
	欠損値	0	0.0	1	5.6		欠損値	0	0.0	0	0.0
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
II-4 つらいときにも助けをもとめることができない	全くない	9	50.0	10	55.6	II-12 腹がたつと、子どもを無視する	全くない	10	55.6	14	77.8
	年に1, 2回ある	3	16.7	2	11.1		年に1, 2回ある	2	11.1	1	5.6
	月に1, 2回ある	1	5.6	3	16.7		月に1, 2回ある	2	11.1	2	11.1
	週に1, 2回ある	3	16.7	1	5.6		週に1, 2回ある	4	22.2	0	0.0
	ほとんど毎日	2	11.1	1	5.6		ほとんど毎日	0	0.0	1	5.6
	欠損値	0	0.0	1	5.6		不明	0	0.0	0	0.0
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	全くない	4	22.2	1	5.6	II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	全くない	5	27.8	13	72.2
	年に1, 2回ある	4	22.2	8	44.4		年に1, 2回ある	7	38.9	3	16.7
	月に1, 2回ある	3	16.7	8	44.4		月に1, 2回ある	3	16.7	2	11.1
	週に1, 2回ある	6	33.3	0	0.0		週に1, 2回ある	3	16.7	0	0.0
	ほとんど毎日	1	5.6	0	0.0		ほとんど毎日	0	0.0	0	0.0
	欠損値	0	0.0	1	5.6		欠損値	0	0.0	0	0.0
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	全くない	4	22.2	10	55.6	II-14 子どもにげんこつで殴る	全くない	11	61.1	17	94.4
	年に1, 2回ある	2	11.1	4	22.2		年に1, 2回ある	4	22.2	1	5.6
	月に1, 2回ある	2	11.1	2	11.1		月に1, 2回ある	1	5.6	0	0.0
	週に1, 2回ある	9	50.0	1	5.6		週に1, 2回ある	2	11.1	0	0.0
	ほとんど毎日	1	5.6	1	5.6		ほとんど毎日	0	0.0	0	0.0
	欠損値	0	0.0	0	0.0		不明	0	0.0	0	0.0
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	全くない	6	33.3	11	61.1	II-15 子どもを足蹴りする	全くない	12	66.7	16	88.9
	年に1, 2回ある	2	11.1	2	11.1		年に1, 2回ある	5	27.8	2	11.1
	月に1, 2回ある	3	16.7	4	22.2		月に1, 2回ある	1	5.6	0	0.0
	週に1, 2回ある	6	33.3	0	0.0		週に1, 2回ある	0	0.0	0	0.0
	ほとんど毎日	1	5.6	1	5.6		ほとんど毎日	0	0.0	0	0.0
	欠損値	0	0.0	0	0.0		欠損値	0	0.0	0	0.0
	合計	18	100.0	18	100.0		合計	18	100.0	18	100.0
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	全くない	5	27.8	11	61.1						
	年に1, 2回ある	3	16.7	6	33.3						
	月に1, 2回ある	2	11.1	0	0.0						
	週に1, 2回ある	6	33.3	0	0.0						
	ほとんど毎日	2	11.1	1	5.6						
	欠損値	0	0.0	0	0.0						
	合計	18	100.0	18	100.0						

表 4-3-2 自己評価のプレとポストの比較（ウィルコクソンの符号付き順位検定）

		人数	平均値	中央値	Z	正確な有意確率 (両側)	有意差
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある	プレ	18	2.3	1.0	-.498 ^b	0.682	n s
	ポスト	17	2.0	2.0			
II-2 自分の人生は辛いことが多すぎると思うことがある	プレ	18	2.6	2.0	-1.044 ^b	0.322	n s
	ポスト	18	2.3	2.0			
II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	プレ	18	1.9	1.5	-.106 ^c	1.000	n s
	ポスト	17	1.9	2.0			
II-4 つらいときにも助けをもとめることができない	プレ	18	2.2	1.5	-.840 ^b	0.453	n s
	ポスト	17	1.9	1.0			
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	プレ	18	2.8	3.0	-1.165 ^b	0.283	n s
	ポスト	17	2.4	2.0			
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	プレ	18	3.1	4.0	-2.850 ^b	0.002	*
	ポスト	18	1.8	1.0			
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	プレ	18	2.7	3.0	-2.347 ^b	0.019	*
	ポスト	18	1.8	1.0			
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	プレ	18	2.8	3.0	-2.858 ^b	0.003	*
	ポスト	18	1.6	1.0			
II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	プレ	18	1.2	1.0	-1.732 ^b	0.250	n s
	ポスト	18	1.1	1.0			
II-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	プレ	18	1.2	1.0	-.816 ^b	0.688	n s
	ポスト	18	1.1	1.0			
II-11 つい子どもに怒鳴っている	プレ	18	3.0	3.0	-2.591 ^b	0.009	*
	ポスト	18	1.9	1.5			
II-12 腹がたつと、子どもを無視する	プレ	18	2.0	1.0	-1.933 ^b	0.094	†
	ポスト	18	1.5	1.0			
II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	プレ	18	2.2	2.0	-2.194 ^b	0.032	*
	ポスト	18	1.4	1.0			
II-14 子どもにげんこつで殴る	プレ	18	1.7	1.0	-2.232 ^b	0.031	*
	ポスト	18	1.1	1.0			
II-15 子どもを足蹴りする	プレ	18	1.4	1.0	-1.890 ^b	0.125	n s
	ポスト	18	1.1	1.0			

注1) Wilcoxon の符号付き順位検定 b. 正の順位に基づく c. 負の順位に基づく

注2) 尺度:1位「全くない」、2位「年に1、2回ある」、3位「月に1、2回ある」、4位「週に1、2回ある」、5位「ほとんど毎日」

注3) *: $p < 0.05$ †: $0.05 < p < 0.1$ ns:有意差無

4-4 育児意識と自己評価の下位尺度得点に関するプログラム実施前後の比較

(表 4-4、図 4-4-1、図 4-4-2)

表 4-4、図 4-4-1、図 4-4-2 からわかるように、自己意識の「第 2 因子孤立感・信頼感」以外の因子については、いずれもプレよりポストの下位尺度得点が 5%の危険率で有意に低くなっていました。

このことから、「MY TREE 父親プログラム」に参加することによって、育児意識の「体罰容認」「被害感情」「悲観的思考」が軽減され、また、自己評価の「感情コントロール困難」「身体的暴力」も軽減されたことが分かりました。しかし、「孤立感・信頼感」には変化がありませんでした。

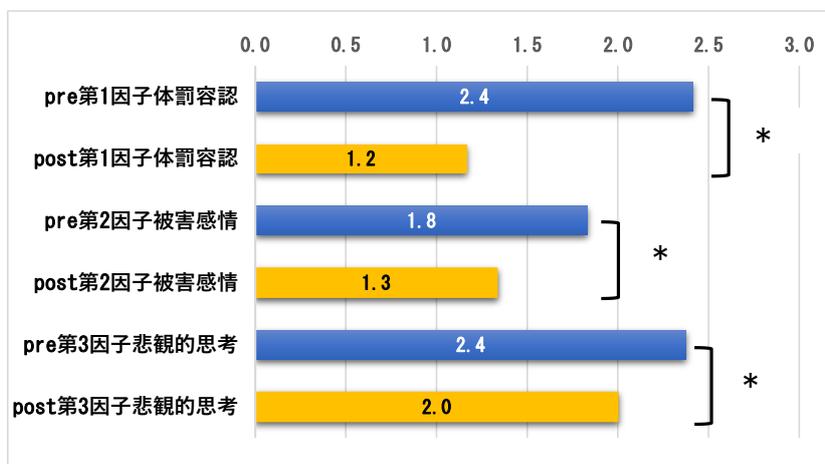
表 4-4 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

		人数	平均値	中央値	Z	正確な有意確率 (両側)	有意差	
育児意識	第1因子体罰容認	プレ	18	2.2	2.4	-2.730 ^b	0.004	*
	第1因子体罰容認	ポスト	17	1.4	1.2			
	第2因子被害感情	プレ	18	1.9	1.8	-2.085 ^b	0.041	*
	第2因子被害感情	ポスト	18	1.5	1.3			
	第3因子悲観的思考	プレ	18	2.2	2.4	-2.011 ^b	0.050	*
	第3因子悲観的思考	ポスト	18	2.0	2.0			
自己評価	第1因子感情コントロール困難	プレ	18	2.7	3.1	-2.929 ^b	0.002	*
	第1因子感情コントロール困難	ポスト	18	1.7	1.4			
	第2因子孤立感・不信感	プレ	18	2.4	2.1	-.735 ^b	0.487	ns
	第2因子孤立感・不信感	ポスト	17	2.1	1.8			
	第3因子身体的暴力	プレ	18	1.6	1.6	-2.496 ^b	0.012	*
	第3因子身体的暴力	ポスト	18	1.1	1.0			

注1) Wilcoxon の符号付き順位検定 b. 正の順位に基づく

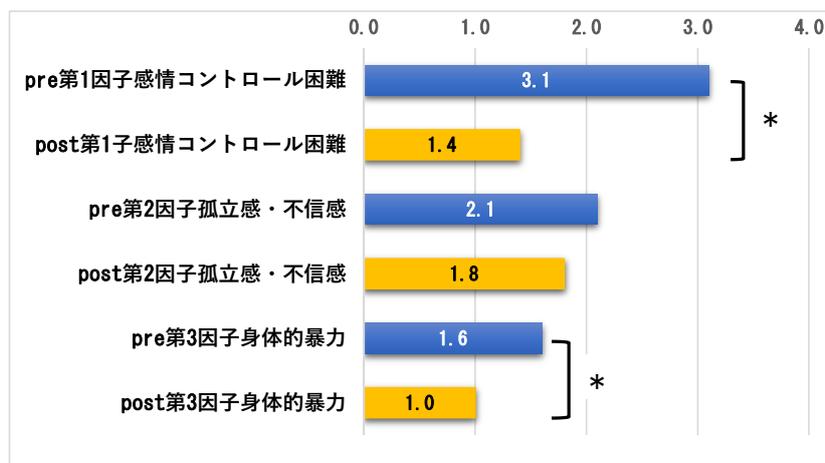
注2) * : $p < 0.05$ ns : 有意差無

図 4-4-1 育児意識に関する下位尺度得点のプレとポストの比較



注) * : $p < 0.05$

図 4-4-2 自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較



注) * : $p < 0.05$

5. まとめ（結論）

分析の結果、以下の4点が分かりました。

①子育て状況について（表 4-1-1、表 4-1-2）

子育て状況に関する10項目中、「Ⅲ-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる」については肯定的な回答が増えていました。しかし、他の9項目については、変化は認められませんでした。

②育児意識について（表 4-2-1、表 4-2-2）

5項目（Ⅰ-1、Ⅰ-5、Ⅰ-6、Ⅰ-8）については、プレよりもポストの順位が統計的に有意に低くなっており、ポストの方が否定的な意識に変化していました。また、逆転項目の2項目（Ⅰ-7、Ⅰ-13）については、プレよりもポストの順位が統計的に有意に高くなっており、ポストの方が肯定的な意識になっていました。Ⅰ-10（逆転項目）は、プレよりポストの順位が統計的に高い傾向があり、ポストの方が肯定的な意識に近くなったと推測されます。他の5項目（Ⅰ-2、Ⅰ-3、Ⅰ-4、Ⅰ-11、Ⅰ-12）についてはプレとポストの間には統計的な有意差は認められず、変化はありませんでした。

育児意識に関する項目については否定的になる方が望ましく、逆転項目については肯定的になる方が望ましいことから、13項目中、8項目（Ⅰ-1、Ⅰ-5、Ⅰ-6、Ⅰ-8、Ⅰ-7、Ⅰ-13、Ⅰ-7、Ⅰ-13）については、プログラム効果があったと推察されます。

③自己評価について（表 4-3-1、表 4-3-2）

6項目（Ⅱ-6、Ⅱ-7、Ⅱ-8、Ⅱ-11、Ⅱ-13、Ⅱ-14）については、プレよりポストの方が統計的に有意に高くなっており、ポストの方が否定的に変化していました。Ⅱ-12の項目は、プレよりポストの順位が統計的に高い傾向があり、ポストの方が否定的になったと推測されます。この他の8項目（Ⅱ-1、Ⅱ-2、Ⅱ-3、Ⅱ-4、Ⅱ-5、Ⅱ-9、Ⅱ-10、Ⅱ-15）については、プレとポストの間には統計的な有意差は認められず、変化はありませんでした。

自己評価に関する項目については否定的になるに方が望ましく、15項目中、7項目（Ⅱ-6、Ⅱ-7、Ⅱ-8、Ⅱ-11、Ⅱ-13、Ⅱ-14、Ⅱ-12）については、プログラム効果があったと推察されます。

④育児意識と自己評価の下位尺度得点について（表 4-4、図 4-4-1、図 4-4-2）

母親を対象とする「2022年度 MY TREE ペアレンツ・プログラム」の育児意識と自己評価に関する項目から抽出された因子を使用し、それぞれの下位尺度得点を算出しました。育児意識については、「体罰容認」「被害感情」「悲観的思考」の3因子、自己評価については「感情コントロール困難」「孤立感・不信感」「身体的暴力」の3因子です。これらの3因子の下位尺度得点を算出するにあたって、否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値しました。

自己意識の「第2因子孤立感・信頼感」以外の因子については、いずれもプレよりポストの下位尺度得点が低くなっており、肯定的に変化していたことから、プログラム効果があったと推察されます。

以上のことから、「MY TREE 父親プログラム」については、一定の効果があったことが推察されます。ただし、本報告の調査対象者は18人で、カイ2乗検定やウィルコクソンの符号付き順位和検定の検出力が0.8以下だったので、今回の分析結果を一般化するには限界があります。（なお、統計的検定を用いたデータ分析結果を一般化するためには、調査対象者は少なくとも35人以上必要になります。）

（2023年8月18日八重樫牧子記）